

日本語の特徴

小西 円（東京学芸大学）



東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構
外国人児童生徒教育推進ユニット

日本語の表記

じえいあーるのえきまえですいかをひろった。

J Rの駅前でスイカを拾った。



ひらがな・カタカナ・
漢字・アルファベット

音読み・訓読み

漢字圏のこども
・非漢字圏のこども

日本語の文字学習

(日本語教科書の事例)

教科書の事例紹介

日本語の文字学習

(日本語教科書の事例)

文字学習は語彙学習。
意味のある文脈の中で
子どもたちに必要な語彙を。

教科書の事例紹介

語彙学習の工夫（1） カテゴリー

具体物の理解 と それらを総称するカテゴリー名の理解
の 双方を意識

上位カテゴリーを
動詞にしてみた
場合

飲み物

お茶、牛乳、
水、ジュース
…

乗り物

車、バス、
電車、自転車
…

～を読みます

本、教科書、
マンガ、新聞
…

語彙学習の工夫（2）コロケーション

教科書の事例紹介

語と語の決まった
結びつき

「コロケーション」

宿題 が 出る
宿題 を する
宿題 が 終わる
宿題 を 出す

コロケーションを
意識した
まとめ

日本語の構造（Ⅰ）

あした、先生が授業中に資料を見せてくれる

かもしれない。
んだって。
はずだった。
わけがない。

命題

モダリティ

- ・ 命題とモダリティ
- ・ モダリティの部分（文末）に話者の判断等が来る。

文末まで聞かないと文の意味が分からない

日本語の構造 (2)

助詞

あした、先生 **が** 授業中 **に** 資料 **を** 見せてくれる

かもしれない。
んだって。
はずだった。
わけがない。

- ・助詞が文の骨格を作る
例) 魚 () 食べた

魚 (が) 食べた
魚 (を) 食べた
魚 (と) 食べた ...

- ・助詞は会話では落ちる場合があるが、
文章では基本的には落ちない

助詞が変わると
文が変わる

日本語の構造 (3)

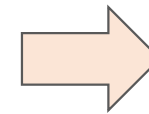
あした、先生が授業中に資料を **見せてくれる**

かもしれない。
んだって。
はずだった。
わけがない。

・ 述語部分の活用

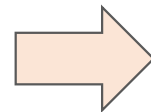
「未然・連用・終止・連体・仮定・命令」ではなくて…

「**ない形・て形/た形・辞書形・ば形・命令形**」



学習者の視点

・ 受身（～られる）の難しさ



教科書の文章理解に欠かせない

例) 食品は胃や腸などで消化され、栄養素が吸収されます。

例) ●市の耕地は平坦地域と山間地域にわけられます。

例) かけられる数とかける数

日本語の構造（４）

あした、先生が授業中に資料を見せてくれる

かもしれない。
んだって。
はずだった。
わけがない。

3限の歴史の

江戸時代に書かれた
貴重な

- ・ 名詞修飾で情報を付加し文が長くなる（節が増えることでも長くなる）
- ・ 新聞などの文字数に制限のある文章やアカデミックな文章ほど、文における名詞の割合（名詞修飾の割合）が増える。

⇒ 教科書の文章理解に欠かせない

例) こうして、身分に応じた職業によって生活する近世社会の仕組みが固まりました。

日本語の談話理解

話すことば・聞くことば

- ・目の前に相手がいるやりとり
- ・理解を確認しながらやりとり（ジェスチャー、言いなおし）
- ・短い文

書くことば・読むことば

- ・目の前に相手がない（文字情報からの理解）
- ・長い文章
- ・基本的な構造を理解したうえで、より長く複雑な構造の文の理解ができる（語彙の理解も…）

母語としての日本語・ 第二言語としての日本語

母語話者として 理解している日本語 と
第二言語として 学ぼうとする日本語 は
見え方が少し違います

学習者の視点にたって、日本語の特徴を理解する